

授業や学力、学級を安定させるためのちょっとした工夫

三河学力研 石川 満

今回、担当の方から「学級を安定化させる学力・授業づくり」というテーマをいただきました。ですが、私がこれを書くのにふさわしいとは思えません。なぜなら今年度、私は精神的、生活的に不安定な児童を受け持ち、それに振り回され、安定とはほど遠い学級経営をしているからです。安請け合いをしてしまった自分もいけないのですが、原稿を空けたら他の方に迷惑がかかるので、申し訳ない一心で書かせていただきます。取るに足らない内容であることをお詫びします。

1 授業を安定させる方法

正直、私は授業で学級を安定させようと思ったことはありません。ですが、安定した授業をしようとは思っています。そのために、自分がこころがけていることを、社会の授業「情報産業とわたしたちのくらし」を例にお話しします。

①授業前

チャイムが鳴る前に、「1/31 テレビの情報はどう生かせばいいか 888」と日付、課題、ページ数は黒板に書きます。こうすると、しっかりとした子はもうノートを開いて書いてくれます。なんとなくクラスに勉強しようというムードを作ってくれます。もちろんその子たちを褒めます。

②地名探し

安定とは関係ないかもしれませんが、ゲームの要素を入れて地名探しを行います。個人戦、ペア対決、グループ対決をします。子どもはこの活動を楽しみにしています。やめると不安定になるでしょう。

③音読

見開き2ページの本文をすべて音読します。地名探しが終わり、課題も書き終えて、教科書を持って読む用意をしている子を褒めます。「では、音読をしましょう。声に出

して読むと脳が活性化します。勉強の内容もよく入り、集中力も高まります。」など、音読する目的も話します。連れ読み、交代読み、社会係による交代読み…と読むパターンも変えていきます。飽きさせない工夫です。

④調べる活動

そして、調べる活動です。課題は「地上デジタル放送でできること」です。「地上デジタル放送でどんなことができるようになったかな。今読んだところに書いてあります。ざつと見ても5個はありますよ。探してノートに箇条書きで書きなさい。時間は3分です。はじめ。」というように、こちらの要求の対象と量を明らかにします。子どもが調べる活動の間、私はなかなかノートが進まない子の机に行き、教科書に線を書いて書く内容を教えてやります。時間が来たら、第一発言者に司会をさせます。

⑤考える活動

調べる活動だけでは、インプットに偏って授業全体が単調になるので、考える活動を入れます。この日は、「報道被害を伝える新聞記事」を読んで思ったこと、そして

「報道被害が起きないようにするにはどうしたらいいか」を考えて発表していきました。どちらも、ノートに使う行数を「3行までで書きなさい」と、指示します。そして友だちの意見も書かせます。すると、最後のふりかえりまでで、大体ノートは1ページに収まります。子どもがノートを取ることも「安定」です。

2 学力を安定化させる方法

学力づくりが学級の安定化につながるかどうかは分かりませんが、子どもの「できる・できない」の振幅を大きくしないよう、ちよつとした工夫を心がけています。

①暗唱

算数の『割合』は5年生の中でもっとも難しい単元です。ただでさえ文章問題で難しいのに、「百分率」「歩合」の概念がそれに拍車をかけています。そこで、「習うより慣れる」というつもりで、暗唱をしました。背面黒板に「0.1は1割で10%、0.01は1分で1%、0.001は1厘で0.1%…」と記し、朝の歌の後、いただきますの前の一日2回、暗唱を行いました。授業でも、子どもは「毎日読んでるので、

すぐにわかった」と、抵抗感なくすんなりと理解してくれました。

②漢字

新出漢字の学習は、十一月に終わってしまっているのですが、この時期は毎日十問ずつ宿題で復習をしています。宿題で練習してきた問題を、次の日に小テストにしています。国語の単元テストを行うときは、「漢字の問題はこの中から出ます」と添えて、黒板に十問ほど問題を書いておきます。「テストに出る数問をできるかできないか」を気にするよりも、その十問を子どもが覚えようとしてくれることが大切だと思います。

3 学級を安定化させる方法

「授業づくり、学力づくりをして学級を安定化させる」という考えと、「授業づくりと学級づくりは別物、両輪であり、それぞれに手立てが必要」という考えがあると思います。私の場合は、どちらかというの後者です。私が日頃、学級が落ち着くように心がけていることは「見通しを持つ・持たせること」です。

見通しを持たせることは、子どもの心や生活への安定に不可欠だと考えます。高学

年になると、子どもは、委員会、課外活動などいろんな立場・側面を持つようになります。それぞれのスケジュールが微妙に違う彼らにこそ、できるだけその日の見通しを持たせたいと思います。

そこで、朝、黒板の隅に、その日の大きな予定を書き出しておきます。「児童集会后に小テスト」「20分放課に飼育委員会視聴覚室に集合」「エプロン、シューズ持ち帰り」など、イレギュラーな内容は必ず書きます。こうすると、その日の子どもの様子が「見えて」きます。

また、その場で突然言うような反感を買うだろうと予想できることは、できるだけ背面黒板のコーナーに記しておきます。「○月○日、算数テスト、○ページから○ページまで」「○月○日、交通指導員さんに感謝の手紙を書く」などです。

これらは、子どものためという聞こえはいいですが、忘れっぽい自分自身の確認のためにも必要です。また、こうすることで自分の気持ち落ち着くような感じがします。担任の心が安定しているって、子どもにとって大切だと思います。